

クラスター	生体機能系クラスター		
授業科目名	生体調節外科学・実習		
担当者名	責任者	有田 淳一	分担者
単位数	1単位(選択)	配当年次	1, 2年次
授業形態	実験実習	実施場所	授業計画の[実施場所]を参照
開講期間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		
開講曜日・時間	毎週木曜日 18:00~20:00(日程の詳細は応相談)		
授業の概要・到達目標			
<p>授業の目的:手術適応の決定と手術後の生体機能の維持を理解することを目的とする。 授業の到達目標:手術により生じる解剖学的欠損障害と合併症を理解し,説明できるようになることを目標とする。</p> <p>授業の概要:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胃癌の治療において選択する切除の範囲,再建方法による術後障害の違いを理解する。 2. 大腸切除の切除範囲と再建・神経切除による膀胱機能障害・その回避策について理解する。 3. 肝切除量との肝不全発症リスクの関係・残肝機能的予備力の判定について理解する。 4. 解剖学的肝切除のエッセンス・解剖学的バリエーションと手術の工夫について理解する。 5. 胆道再建時の術後併発症とそれによる長期的生体調節のデメリットについて理解する。 6. 膵頭十二指腸切除術の術後併発症とそれによる長期的生体調節のデメリットについて理解する。 7. 感染症の併存が手術治療の合併症・予後にもたらす影響を理解し,対策を学ぶ。 8. 癌の再発がもたらす術後生体機能に及ぼす影響と対策を学ぶ。 9. 手術設計における放射線診断の意義と注意点を理解する。 10. 内視鏡学的診断とインターベンションの手術設計における意義を理解する。 			
授業計画			
	講義題目 (講義内容)	担当教員	講座名 [実施場所]
1	胃切除術の適応と想定される欠損症状と合併症	有田 淳一	消化器外科学 [1-6病棟 カンファレンスルーム]
2	大腸切除術の適応と想定される欠損症状と合併症		
3	肝切除術の適応と肝不全		
4	肝臓の脈管解剖と許容可能切除範囲		
5	胆道再建の方法と想定される欠損症状と合併症		
6	膵頭十二指腸切除術と想定される欠損症状と合併症		
7	感染症と術中術後合併症		
8	癌再発と生体機能		
9	放射線学的診断と治療対策		
10	内視鏡学的診断と治療対策		
授業形態および成績の評価方法・基準			
講義室(研究室)での実習20時間+自学自習25時間,計45時間で1単位とし,評価は出席状況と口頭試問および提出したレポートの内容を考慮して行う。			
問い合わせ先(氏名,メールアドレス等)			
有田 淳一, jarita@med.akita-u.ac.jp			
その他特記事項			
履修に関する情報:社会人大学院生など,勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。			
教科書・参考文献:必要に応じて資料を配付する。または,文献を指定する。			
自学自習時間における学習内容:到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。			